鍛冶工房建物ができました！

垣内遺跡の発掘調査では、２３棟の竪穴建物（たてあなたてもの）跡が見つかっています。当時の建物は、地面に丸や四角い穴を掘って床とし、柱を立てて屋根を葺く構造でした。調査では建物の床や柱を立てた穴しか見つかっていませんが、山から切り出した木を柱に使い、川べりに生える草を屋根に葺いたと考えられています。

垣内遺跡では建物の床に強い火を受けた痕跡が見つかり、鉄器を作る工房＝鍛冶工房建物（かじこうぼうたてもの）ではないか？と考えています。また床の直径が 10mを越える大きな建物もあり、どんな構造だったのか？も研究テーマのひとつです。

完成した鍛冶工房建物

垣内遺跡の活用に向けて、鍛冶工房建物を造る実験に取り組みました。兵庫県ヘリテージマネージャーの指導を受けながら淡路市教育委員会が設計を行い、県立考古博物館の「竪穴建物復元プロジェクト」で培ったノウハウを活かして建築しました。作業は９月より本格化し、屋根材となるススキ・カヤ類の確保、10 月には五斗長地区の山中から柱材の切り出しと組み立て、11 月より屋根葺き作業を行って完成しました。この間、材料の収集や確保、柱の組み立て、屋根葺きなどの作業に、多くの地元住民の参加があり、11 月 28 日には地元の小学生も参加して盛大に完成を祝う式典が行われました。

造った建物は３棟で、柱や屋根材は遺跡周辺から集めました。内部で火を使う実験に使うため、空間を可能な限り大きくとるよう工夫し、１棟は高温がこもらぬように柱が組みあがった状態で完成させました。次年度以降は建物を使った先行ソフト事業や、鉄器づくり研究の実験場として活用が期待されます。

鍛冶工房建物の内部

現地の見学については、淡路市教育委員会埋蔵文化財調査事務所（電話：0799-60-2071）にお問い合わせください。